

国語

I

出典

立花幸司「人工知能と人間らしさ」(鈴木貴之編著『人工知能とどうつきあうか——哲学から考える』)
Ⅱ 人工知能を活用する——道具としての可能性 第8章(勁草書房)

解答

問1 1—④ 2—② 3—④ 4—① 5—②

問2 A—③ B—⑤ C—④ D—①

問3 ア—② イ—③ ウ—④ エ—① オ—①

問4 ⑤

問5 ④

問6 ②

問7 ④

問8 ①・③ (順不同)

解説

問4 空欄の直後に「米国の公式機関が判断した最初のケース」とあり、同段落前半に「米国著作権局」が「イラストそのものについては著作権保護の対象とは認められないとの結論を下した」とある。「著作権保護の対象」について触

れているのは⑤である。

問5 使用者側が「指示の仕方を工夫することにより」、人工知能に「より質の高い結果を吐き出させることができる」ということなので、使用者と人工知能は協力しあっている。したがって両者の間の関係は④の「協働関係」である。

問6 直前の段落に「こうした人工知能ロボットは、終わることのない『愛』を自分に傾けてくれる人工物」だとある。

「こうした」の指示する内容は、「自分の傍らにおいて自分をいつも見守ってくれる」「話しかければいつでも自分の話を聞いて相槌をうってくれる」「自分が生きている限り使い続けられる」である。この内容に合致しているのは②である。①「人間の愛情を上回る」、③「乗り越えることで強い愛情が生まれる」、④「有限の存在であるため……強い愛情」、⑤「人間は人工知能に愛情を感じない」がそれぞれ不適。

問7 最終段落の内容に着目する。「私たちは自分たちが有限の人間であるという『死の自覚』を育む必要がある」と述べており、④が合致している。①後ろから三段落目に「自己概念さえも変容する」とあるので、「人間が変容していることを妨げる」は不適。②後ろから二段落目で、「両者の愛には決定的な違いがある」とし、人の「愛」に意義を見いだしている。③「人工知能」が「半永久的に生きる」かどうかは問題にしていない。⑤「飽きやイライラを感じてしまう」人間を有限だと自覚したのではない。

問8 ①第二段落の「人工知能によって作成されたSF作品……投稿の受付を停止するに至った」「投稿された作品が人の手によるものなのか人工知能の産物なのかを編集者が判別できなくなったため」という内容に合致している。

③第六段落の「人工知能リテラシー」という知的徳」は、「人工知能が生成した文章……『知的な慎重さ』」「有意義な使い方を見つけ出し……『創造性』あるいは『発想力』」などを含めることができるという内容に合致している。

II

出典

馬場伸彦「自撮りと私——キャラ化したコミュニケーション」(米澤泉・馬場伸彦『奥行きをなくした顔の時代——イメージ化する身体、コスメ・自撮り・SNS』〈第4章〉晃洋書房)

解答

- 問1 1—① 2—② 3—③ 4—⑤ 5—⑥
問2 ①

問3 ア—③ イ—① ウ—⑤ エ—②

問4 A—② B—③ C—④ D—①

問5 ④

問6 ③

問7 ②

問8 ④

問9 ⑤

問10 ③

解説

問2 「自撮り」や「インスタグラムの画像」の対極にある写真であることに着目する。特に最終段落の内容に注意。インスタグラムの画像には「ある種の既視感」があり、「ノスタルジックな風景の複製」で「私たちを記憶の中へと送りかえ」すものである。②と③の一部にその内容が含まれているので「記念写真」としては不適。また、④は「秘匿することが目的」が不適。⑤は「既存のイメージを打破する」が不適。①が、第一・二段落の「個人的な写真行為」「記念や記録のため」という内容に合致している。

問5 「I」ではなく」と否定されていることに注意。空欄の直前・直後で述べられているように、「イメージ」の先取りであり、「完璧なイメージ」に仕上げて提示されているのが、「自撮り」である。自分を撮ってはいるが、「イメ

ージ」であって、自分そのものの姿を撮ったものではない。

問6 第六段落に「自撮り」の特徴として、「『いいね!』など、その価値に見合った賛辞を得たいがために、賞賛されやすい画像、……よくできた『既知のイメージ』を挙げている。このことが「インスタグラムの画像」と同じだと第八段落で述べていることから、「一般的に賞賛されやすい状態」とある③が正解。

問7 空欄直前の「自撮りと同じような」と直後の「ユーザーは……表現者なのである」に着目する。自撮りの特徴である「自己顕示欲」(第三段落)と、ユーザーが「表現者」であることから、②の「自己表現への欲求」が正解。

問8 空欄直前の「自らが創造した『理想の光景』」と並列の関係にあり、「人に見せるために提示された」ものにあたるのは④の「オシャレな私の『世界観』」である。

問9 直後の最終段落に「撮影されるのは新しい風景ではなく、ノスタルジックな風景の複製なのである」とあるので⑤が正解。

問10 ①「インスタグラムとは異なりユニーク」が不適。

②「記念や記録のために写真を撮ろうという人は少なく」なつたとは言っていない。

③自撮りについて、第四段落に「ネットワークの中で疑似的な社会関係を結びたい」、第六段落に「賛辞を得たい」「自撮りの画像の定型化」とある。さらに、第八段落には「このことは、……インスタグラムの画像に関しても」とあり、インスタグラムの画像も自撮りと同様であるから合致している。

④「独自の発展が見込める」とは言っていない。

⑤「常に既視感のあるもので新規性に欠ける」が不適。